

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
0 建築物の環境品質								4.0
Q1 室内環境			0.40					3.9
1 音環境		4.0	0.15	-	-			4.0
1.1 騒音		4.0	0.40	-	-			
1.1.1 室内騒音レベル	開口部遮音性能値T-2から騒音レベルを評価	4.0	1.00	3.0	-			
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		4.2	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能	遮音性能値:T-2を採用	5.0	0.60	3.0	-			
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音	床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板	4.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.4	0.35	-	-			3.4
2.1 室温制御		3.8	0.50	-	-			
2.1.1 室温		3.0	0.38	3.0	-			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能	十分な配慮がなされた日射遮蔽性能、断熱性能を有する窓システムSC:0.5 U=1.7W/m ² K、外壁U=0.724W/m ² K	5.0	0.25	3.0	-			
2.1.4 ゾーン別制御性	インテリア及びベリメーターゾーン毎の冷房、暖房の選択が可能	4.0	0.38	-	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		4.1	0.25	-	-			4.1
3.1 昼光利用		4.0	0.30	-	-			
3.1.1 昼光率	2~5階事務室 昼光率=2.4%	4.0	0.60	3.0	-			
3.1.2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3.1.3 昼光利用設備	ライトシェルフの採用	4.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
3.2.2 昼光制御	ライトシェルフ(庇兼用)とブラインドの組み合わせで制御する	4.0	1.00	3.0	-			
3.2.3 映り込み対策		-	-	-	-			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	-			
3.4 照明制御	1作業単位にて制御可能。自動照明制御が可能。	5.0	0.25	3.0	-			
4 空気質環境		4.4	0.25	-	-			4.4
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質	F の建材を採用、VOCは放射量が少ない建材を使用する	5.0	1.00	3.0	-			
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30	-	-			
4.2.1 換気量		3.0	0.33	3.0	-			
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-			
4.2.4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-			
4.3.1 CO ₂ の監視	中央にてCO ₂ 監視を行うとともに、自動制御している	5.0	0.50	-	-			
4.3.2 喫煙の制御	完全に仕切られ、負圧に保たれた喫煙室を設置している	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			4.2
1 機能性		4.0	0.40	-	-			4.0
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1.1.1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-			
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-			
1.1.3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.3	0.30	-	-			
1.2.1 広さ感・景観	天井高3.0mの確保	5.0	0.33	3.0	-			
1.2.2 リフレッシュスペース	各階にリフレッシュスペースを設置	4.0	0.33	-	-			
1.2.3 内装計画	コンセプトに基づいた内装計画、パースによる事前検討	4.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理		5.0	0.30	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計	防汚性のある仕上材の採用 内装:EP-2、外装:外壁PC板塗装への光触媒添加、防錆対策 亜鉛めっき鋼板、ステンレス材の使用	5.0	0.50	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保	トイレ毎の清掃用流し、天井点検口600×600の確保。	5.0	0.50	-	-			
1.3.3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		4.3	0.31	-	-			4.3
2.1 耐震・免震		5.0	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性	基準法の1.5倍以上の耐震性を確保(層間変形角にて確認)	5.0	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能	免震装置の導入	5.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.3	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	事務室床:タイルカーペット、壁:EP-2(PB12.5+12.5)、天井:システム天井(岩綿吸音板t15)	5.0	0.09	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	VLP(給水)、VP(排水)	4.0	0.15	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.4 信頼性			4.4	0.19	-	-	
1	空調・換気設備	非常用発電設備により、災害時に重要度の高い換気、空調設備を優先的に運転可能としている	5.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備	節水器具を採用	5.0	0.20	-	-	
3	電気設備	非常用発電設備、無停電電源設備の設置	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	光、メタルによる通信手段の多様化、精密機械は地下に設けない	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			4.5	0.29	-	-	4.5
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	基準階階高4.4m	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率が0.1未満	5.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		基準階執務空間 4900N/m ²	5.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.8	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	システム天井を採用し、仕上材を傷めずに更新、修繕が可能	4.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	システム天井、OAフロアによりEPSからの更新、修繕が可能	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	システム天井、OAフロアによりEPSからの更新、修繕が可能	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース	屋上に予備スペースが計画されている	4.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		現況建物に調和した外装計画、前面道路からの良好な景観形成	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		ビロティを設け中間領域の形成、ITVカメラの設置等	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		豊富な緑地、高温排熱の高所排出等	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.4
1 建物の熱負荷抑制		PAL低減率22.6%	4.3	0.30	-	-	4.3
2 自然エネルギー利用			4.0	0.20	-	-	4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		ライトシェルフ、トップライト、自然換気、ナイトバージ	4.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用		太陽光発電設備の採用	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		全館LED照明、各種照明制御、CO2制御の採用、ERR=28.5%	4.6	0.30	-	-	4.6
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		ERR=28.5%	4.6	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4 効率的運用			5.0	0.20	-	-	5.0
4.1 モニタリング		BEMSを採用し、システム効率化の評価が行える	5.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		エネルギー消費量の目標値を設定している	5.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 節水		節水型機器が過半に採用されている	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		井水利用	4.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.63	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減		鉄骨強度、Pca、STKR、免震構造の採用	4.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		ビニール床シート、岩綿吸音板、OAフロア	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体と仕上げ材の分別が容易、OAフロアを採用	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.22	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を4つ以上採用	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	
1 消火剤		不活性ガス消火(N2)を採用	4.0	0.33	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0かつGWPが低い断熱材を採用	5.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出量=80%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		適切な駐車スペースを確保している	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		-1) ごみの種類別に数量を推計している -2) 推計に基づいたストックスペースを確保している -3) 分別収容器の設置 -4) 有価物の改修計画を行っている	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.50	-	-	
2 振動			3.0	0.50	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		目的に応じた照度レベルに設定、広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	